

平成 23 年度県内発掘調査の概要

平成 23 年度に県内で行われた発掘調査は、県主体事業が 11 件、市町主体事業が 15 件の計 26 件でした。このうち、工事に伴う緊急調査 10 件、学術調査 1 件、整備や範囲確認のための調査 14 件です。昨年度に比べて総件数が減少しているほか、緊急調査の割合が県・市町とも減少し、調査規模も縮小傾向にあります。

縄文時代では、これまでの調査で丸木舟が 9 艘出土しているユリ遺跡で、初めて住居跡が確認されました。

弥生時代では、今北山・磯部・弁財天古墳群から県内初の高地性環濠集落に伴う環濠が確認され、その環濠は 2 重に巡り、幅 4 m、深さ 3 m を測ります。

古墳時代では、堂山城跡で全長 25m の前方後円墳が、天王前山古墳群で古墳 5 基がみつかりました。その天王前山古墳群では、古墳以外に縄文時代～中世までの遺構・遺物がみつかりました。また、市町で古墳群の範囲確認などの調査が行なわれています。

開発に伴う緊急調査が減少する中、白山平泉寺旧境内（勝山市）・一乗谷朝倉氏遺跡（福井市）・興道寺廃寺・国古城址関連遺跡（美浜町）は、長期的に調査が続けられおり、また、越前市では、平成 20 年度から始まった「越前国府」の場所を特定するための確認調査は最終年になりましたが、国府に関連する遺跡は発見されませんでした。

今後、このように各地域において重要な意味を持つ遺跡について、その実態を明らかにしていくことが期待されます。

この発掘調査報告会でも、一般の皆様にも少しでも分かりやすく、調査成果の紹介ができるよう努力していきたいと思っております。

